

市政 ここが聞きたい

質問

Q&A

議案に対する質疑と市政に対する一般質問は、6月17日、18日の2日間にわたって行われ16名の議員から質問がありました。質問と答弁の内容を要約してお知らせします。

二期目は、市民が元気の出る真の改革を目指せ!!



代表質問
自民党こまつ
灰田昌典議員

◆二期目の市政運営

Q 先の市長選では、わが自民党こまつの支持もあり、得票率が73.5%と極めて高い数字での当選、心から祝意を申し上げます。二期目の市政運営についての基本姿勢、抱負は。

A 未来の子どもたちのために、一人ひとりの幸せのために、民間の感覚で強い小松を作っていきたい。

◆副市長二人体制

Q 市長は大所高所から判断し、笑顔溢れる市政運営を計れ。その大事な時期に市長に諫言し、手足となって活躍された森副市長の任期中途中の辞任は、誠に残念である。

A 意思決定を早くするという意味でこれまで副市長1人体制で来た。財政状況等を考えた場合でも、今後一人体制で臨んでいきたい

いと思っている。

◆本市の成長戦略は

Q 民間投資を喚起する公共投資は極めて有効と思うが。

A 借金を減らしながらも必要なものはしっかりやっていく、そういう方針を貫いていきたい。

◆北陸の新都心「国際都市こまつ」

Q その実現のため、今後の事業展開や計画は。

A このまちの大きなポテンシャルを生かせるよう、ビジネス、留学、観光等の様々な分野で、アウトバウンド、インバウンドの交流をどんどん広げ、国際的に評価されるまちにしていかなければいけないと思っている。

◆北陸新幹線金沢開業に向けての取り組み

Q ビジネス・観光等の人の流れ、空港との関わり、商業施設のあり方などその方向性は。

A 金沢からの2次交通、小松空港やJR小松駅からの3次交通をどういう風に

組み合わせ、利便性を高めていけるかがポイントだと思っている。いずれにしても、小松の強みをPRしながら、それを引き出していきけるようなまちにしていきたい。

◆サイエンスヒルズこまつ

Q 小松駅東西プロジェクトの代表、サイエンスヒルズこまつ建設工事も順調に進んでいると聞くが、進捗状況、概要は。

A 北側エリアには3Dシアター、イベントホール、展望カフェ、南側エリアには、科学展示や企業展示などの体験コーナーを備えている。来年3月のグラウンドオープンに向け順調に工事は進んでいる。

◆大和小松店跡地の活用策

Q 市民の関心も極めて高い場所であり、議会、各界各層の意見を十分踏まえた議論が必要と思うが。

A 地域経済における活性化、まちづくりとの整合性、少子・高齢化を含めた地域コミュニティの問題、そしてお金の問題等について、それぞれの専門家を委員と

して最終検討を進めているところである。

◆(仮称)こまつ・アグリウェイプロジェクト

Q (株)コマツの温かい申し出にどのように取り組まれるのか。

A いずれは海外から農業研修や6次産業化の事業研修に来ることを想定しながら進めている。

◆スポーツ施設の機能強化

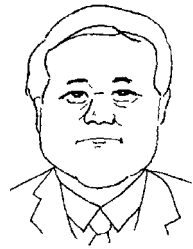
Q スポーツ施設の充実に今後大いに期待する。

A 小松運動公園、木湯湯、こまつドームも含めた中で、より使い勝手のよい、楽しみが増すような形にし、トップアスリートから身近な人までスポーツを楽しんでもらえるようにしていきたい。



JR小松駅東西プロジェクトの顔
サイエンスヒルズこまつ

市長選挙の結果について



代表質問
維新こまつ
浅野清利議員

進をしていきたいと思う。引き続き市民の皆様から高い評価を得られるよう、不惜身命の精神で邁進していくとともに、一視同仁の心をこめて運営をさせていただきたい。

Q 3月24日の市長選挙で、「上昇小松!!心を込めて、さらに進化」をキーワードに、「国際都市小松へ」、「日本一こちよいまちへ」、「まちづくり」に魂を込める市政へ」を3本の柱に選挙戦を戦われ、見事圧倒的な勝利を収められました。得票数、得票率の結果を見て、市民からの付託をどう受け止められたのか。

A 大きな転換期を迎えるまちづくり、そして行政改革、そういったものへの期待の表れということで、75%を超える得票率を頂戴したと思っています。

Q 二期目の抱負と想いは。そして北陸の新都心国際都市こまつをどのような手法で目指すのか。

A 改革を止めることなく、市民の皆様の幸せとまちの未来のために、さらなる精

元気なシニアを増やしていきたい。

Q 自然を痛めつけ、命をないがしろにし、効率ばかりを追求する近代農業の在り方を、農業が持つ価値を大切に、次世代によりよい未来を手渡すことを願う心ある農業者や、消費者の協力を得ながら、安心・安全な有機農業を育てること。そして環境王国推進のためにも有機農業推進協議会を立ち上げて欲しい。

A 小松市全体として、有機栽培の拡大に向け、慣行栽培を特別栽培にする取り組みを段階的に拡大していくところである。少しでも環境にいい、付加価値の高い、体によい、そういうものの比率を高めていくことが大事であると思っています。

Q 私の若い頃は、食べ物を生産する貴重な営みであるにもかかわらず、農業は「きつい、汚い、くさい」など3Kと言われました。5月17日安倍首相も農業改革を柱とする産業競争力強化を発表されました。市として、若手農業者を発掘し格好良く、感動を与え、稼げる3Kになるような方策を考えて欲しい。

A 支援策として、国の「人・農地プラン」、また、小松市独自の取り組みとして、石川県立大学での研修に対する補助、新たな栽培・販路に対する助成として環境王国ひとづくり支援事業をはじめている。

化を発表されました。市として、若手農業者を発掘し格好良く、感動を与え、稼げる3Kになるような方策を考えて欲しい。

A 支援策として、国の「人・農地プラン」、また、小松市独自の取り組みとして、石川県立大学での研修に対する補助、新たな栽培・販路に対する助成として環境王国ひとづくり支援事業をはじめている。

条例については、環境王国こまつ、そして第2次食育推進計画等がより連携を密にすることが先であり、条例化は時期尚早であろうと思っています。



最新鋭のコンバイン

連合審査会の開催

今回の連合審査会は、6月21日に議場において開催しました。制限時間の中、一問一答形式で活発な質疑を行いました。質疑項目については、次のとおりです。

【自民党こまつ】

円地 仁志議員

1 小松市特別職の職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例について

宮橋 勝栄議員

1 「空の駅」整備費

二木 攻議員

1 災害対策費、非常備消費費

2 緑花公園費

【維新こまつ】

新田 寛之議員

1 平成24年度決算見直しについて

2 納税方法拡大費について

3 (仮称)こまつ・アグリウェイプロジェクト推進費について

3 (仮称)こまつ・アグリウェイプロジェクト推進費について

小松市は
南加賀のリーダー



代表質問
みどりの風
杉林憲治議員

Q 北陸新幹線金沢開業まであと二年。広域行政がますます重要になってくる。小松市は南加賀の中心都市であり、リーダーシップを発揮すべきである。

A これまでも南加賀のリーダーとしてやらせていただいていたつもりではあるが、観光交流の分野については民が主体であるべきだと思っている。これからは民の力で南加賀が数段高いレベルに立っていきけるよう努力していきたい。

りについては、10年ビジョンの説明により納得いただけたらと思う。まちは生き物であるからこそ、手を抜いたり、間違いを犯せば衰退する。魂を込めて行政運営にあたりたい。

◆これから50年、まちなび

Q まちは生き物。時代の流れにあわせて、まちなびもその形を変えていく。重心は東へ移動している。都市計画マスタープランの理念に基づき、市全体を広い目で見たまちなびが必要である。

A 小松市全体のまちなび



解体が進む旧大和小松店

◆旧大和小松店の跡地活用

Q 旧大和小松店の跡地は新幹線の小松駅整備を考えたも大事である。南加賀のリーダーとして県や経済界と連携して取り組むべきである。

A 県や経済界との連携はもろろである。検討会では、現在最終的なとりまとめをしている段階であり、9月を目処に活用案を作りたい。

◆企業誘致の取り組み

Q 少子化の歯止めがかからない。安心して結婚し、子どもを産み育てるためにも安定した生活基盤が必要である。若者が安定した雇用と収入をもたらすためにも積極的な企業誘致を。

A 少子・高齢化の中で、シニアや女性の仕事をたくさん作っていききたいという小松市のニーズと企業側の進出意欲を加味した中で、現在、企業誘致のプロジェクト活動を行っているところである。

◆全国植樹祭の対応は

Q 二年後、木場潟で開催される全国植樹祭の準備が進められているが、市民の総結集が求められる。また次代を担う子供たちを対象に緑の少年団の育成を図るべきである。

A 全小学校の校下に緑の少年団をつくろうというところでPTAや教育委員会にお願いをしているが、まずは木場潟周辺の学校を優先的に力を入れさせていたただいている。

◆財政の健全化について

Q 厳しい財政状況の中で各施設に係る管理運営費の抑制をどのように考えているのか。また、老朽化した施設の統廃合をどのように考えているか。

A 3年前に小松市役所環境マネジメントシステム(KEMS)を立ち上げ、固定費の低減に取り組んでいる。統廃合については、現状は存続をベースに考えている。

◆小中連携について

Q 金沢市は今年度から小中一貫教育を導入した。本市の小中連携との違いは。また、成果を問う。

A 家庭学習あるいは生徒指導に焦点を当てた取り組み、学力を高めるための小中連携による授業改善の取り組みについては、小松市の特徴であると考えている。これまでのところ、進学の際の不安の解消や家庭や地域とのつながりの深化、授業の質の向上等の成果が上がっている。

- 【みどりの風】**
- 浅村 起嘉議員
- 1 職員人件費について
 - 2 ファミリーサポートセンター運営費について
 - 3 理科教材充実費について
 - 4 フローラルこまつ花水・樹々推進費について
- 宮川 吉男議員
- 1 環境対策費補助金
- 【無会派】**
- 橋本 米子議員
- 1 子ども・子育て新システム準備費について
 - 2 安心生活ネットワーク費について
- 片山瞬次郎議員
- 1 ウォーキングサロン活動支援費について
 - 2 土地開発公社健全化促進費
- 高野 哲郎議員
- 1 土地開発公社健全化促進費について
 - 2 保育士等処遇改善臨時特例費について
 - 3 フローラルこまつ花水・樹々推進費について
 - 4 「空の駅」整備費について

持続可能な社会—小松で暮らし続けられる—の実現に向けて



宮橋 勝栄
議員

◆ビルボード市（ベルギ）との新たな交流に向けて

◆ 来年の姉妹都市提携40周年を契機として、小松の和菓子店とビルボード市のチョコレート店との交流

を図ってはどうか。

◆ 40周年記念の交換派遣事業の中でビルボード市からの訪問団には和菓子作り体験を、小松市からの訪問団にはチョコレート作り体験をということで現在進めている。こうした交流の中から新たな交流が生まれてくるのではないかと考えている。

◆フューチャーセンターの設立に向けて

◆ 小松の未来について、いろいろな人がその立場を

超えて語り合うフューチャーセンターを設立してはどうか。その前提として市職員のファシリテーション能力の向上をさせるべき。

◆ 既にまちづくりについてフューチャーセンターのような取り組みを行っている。小松の未来を小松流のやり方で行っていききたい。市職員については、特に若手、中堅職員がより専門知識や専門能力を身につけられるよう、研修の機会を増やすなど、その指導については怠りなく進めていき

たいと思っている。

◆集落の持続について

◆ 集落の65歳以上人口が半数以上のいわゆる限界集落、55歳以上人口が半数以上の準限界集落が存在する。その集落を点検し、「暮らし」から発想で集落を存続していかなければならない。見解は。

◆ 中山間地域の共通の課題や地域ごとの課題を分析、抽出することにより、担い手の維持などの課題解決に向けた方策を検討するとい

日本一の行政サービスとは？他市との違いをさせ！！



井田 秀喜
議員

◆日本一の職員育成について

◆ 熊出没や火災（災害時）等、緊急時の広報について他市とは違った日本一のサービスとは。

◆ メールや防災行政無線等の活用により、より速や

かに正確な情報を市民の皆様に提供できるように取り組んでいきたい。消防災害



更なる ICT の活用でスピーディーな情報提供を

◆ 議会内示前や常任委員会前での審議事項や報告内容が詳しく報道されているが、どういった経緯で情報漏えいが行われているのか。

◆ 透明度の高い、開か

れた行政運営を目指すためには、メディア等からの取材に対し協力的であるべきと思っているが、適切な時期に情報の開示がなされるよう、調査とあわせて情報管理の徹底に努めていきたい。

◆防犯交通推進隊について

◆ 防犯交通推進隊の新規入隊を増やすために環境整備を求める。

◆ 赤ランプ作戦等、ボランティアによるご活躍に感謝したい。新規隊員の制服

う集落点検調査については、市としても出来る限り協力、支援をしていきたいと考えている。



中山間地の田んぼには多面的な機能があり維持していく必要がある。

◆ についてはもちろん、デザインや素材の見直しについても支援していきたい。

◆私立高等学校授業料支援について

◆ 私立高等学校への授業料支援を行う計画は。

◆ 小松大谷高校については、今後さらなる小松市奨学金制度の拡充など、生徒が安心して学生生活が送れるよう見直しを行っていくとともに、保護者の意見や実態を把握した中で支援策について検討していきたい。